

The effect of anastrozole on bone mineral density during the first 5 years of adjuvant treatment in postmenopausal women with early breast cancer

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2019-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井上, 寛章 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032186

主論文の要約

「The effect of anastrozole on bone mineral density during the first 5 years of adjuvant treatment in postmenopausal women with early breast cancer（閉経後乳癌の術後補助療法におけるアナストロゾール投与による5年間の骨密度への影響）」

東京女子医科大学東医療センター 乳腺診療部
指導：平野 明 准教授 ㊞
井上 寛章

Springer Plus 雑誌 第4巻 303頁 DOI 10.1186/s40064-015-1096-2
(平成27年7月1日発行)に掲載

【目的】

ホルモン陽性閉経後乳癌患者においてアロマターゼ阻害剤の投与は骨密度の減少と関連があるといわれている。今回術後補助療法としてアロマターゼ阻害剤であるアナストロゾール(ANA)を投与した患者の長期間の骨密度の推移を検討した。

【対象および方法】

2004年から当院でANAが処方された患者を対象とした。骨密度の測定はDEXA法(dual-energy X-ray absorptiometry)を用い腰椎、大腿骨頸部の2カ所を0, 6, 12, 24, 36, 48, 60ヶ月の時点で測定を行った。Tスコアが-2.5以下の骨粗鬆症例にはビスフォスフォネート(Bis)の内服を追加した。

【結果】

2004年から2011年の間に55人が今回の研究の対象となり、観察期間の中央値は53.6ヶ月であった。35人はBisとの内服を併用していた。ANA開始6ヶ月の時点で骨密度は腰椎では0.5%減少、大腿骨では1.5%減少した。60ヶ月の時点では腰椎は1.9%増加、大腿骨では1.5%減少した。腰椎において当初からBisを併用した群では24ヶ月で5.4%増加、併用していない群では4.3%減少した。

($P < 0.0001$)。60 ヶ月の時点では当初から Bis を併用した群では 2.9%増加、併用していない群では 3.2%減少した ($P = 0.1182$)。一方、大腿骨において 60 ヶ月では Bis 併用群で 1.9%増加、併用していない群で 2.7%減少した ($P = 0.1741$)。骨折を来した症例は 4 例であった。そのうち 1 例は疲労骨折であった。

【考 察】

Bis を併用する事で腰椎での BMD コントロールが可能であったが、大腿骨では腰椎ほどの骨密度上昇を認めなかった。これは Bis が本質的に大腿骨より腰椎に効果が高いといわれている点や測定誤差による影響が考えられる。今回の検討では大腿骨の骨折は認めなかったため、骨密度の明らかな上昇がなくとも問題はないと考える。

欧米のデータでは 5 年間の Bis 投与により骨密度を維持もしくは上昇できるとの報告があるが、今回の検討では 4 年目以降に減少する傾向があった。いくつかの報告では人種により骨粗鬆症関連の表現型が潜在的に異なることが示されている。この違いにより日本人における骨量の変化の仕方や Bis の効果に違いが出る可能性があるかもしれない。

骨折に関しては 4 例 (7.3%) で他の報告と比べても変わらない結果であった。

【結 論】

腰椎では Bis を併用することで ANA による骨密度低下を抑え、安全に投与することが可能になると考えられる。